



別所だより

横浜市立別所小学校

令和5年6月23日発行



想いを伝える大切さ

校長 大島 宏二

梅雨の晴れ間にのぞく青空に夏の到来を感じます。強い日差しを受けて、学校で育てている夏野菜はぐんぐん成長し、その収穫を楽しみにしている子どもたちの姿が微笑ましいです。今週月曜日にはプール開きをし、水泳学習が楽しみな時期となりました。

思い起こすとこの4月から、地域の皆様方、PTA役員の方々、放課後キッズクラブや給食調理スタッフ、本校の教職員など、自分を取り巻く人に対して感謝の言葉を伝える機会が数多くありました。それは、純粹に別所小学校や子どもたちへの温かい関わりに対する感謝の気持ちを伝えたかったからなのですが、この「想いを伝える」ということは人との関わりを深め、信頼関係を築いていく上で、とても大切であると改めて思いました。それは、先日、次のようなキャッチコピーを目にしたからです。

**「いいね」って言われると、自信になる。「よくやった」って言われると、次もがんばれる。
ほめられて嬉しいのは、ちゃんと見てくれているって 気づくからだと思う。
ほめるのって、ちょっと照れくさいけど 一生懸命な姿や
いいところを見つけたら、素直に伝えてみませんか。**



そばにいる あなたのひと言だから、千カラになる。

実はこれ、子どもだけではなく、「大人も ほめよう」というキャンペーンの広告でした。子どもに限らず、身近な人に相手を想う温かい言葉を掛け合っていくことはとても大事なことで、“言葉の力は、ことのほか大きい”ということを伝えているのではないのでしょうか。

本校は、今年度の研究の重点教科を国語科にすえて、言葉を大切にしながら、自分の想いを伝える表現力の育成を目指しています。授業でも「ほめる」ことを基本に進めていきたいと思えます。